

埼玉県で一番低い山を求めて

日本で一番低い山（天保山：大阪）、東京都で一番低い山（待乳山・愛宕山）、神奈川県で、千葉県でと進めてきたら、埼玉県、茨城県と進んでみたくなってきた。

埼玉県で一番低い山として日本山名事典（三省堂）では、等高線で確認された山として浅間山（せんげんやま：10m）と、標高点がある山として丸墓山（まるはかやま：36m）が揚げられている。また、この他にも標高点がある（三角点も）山としてポンポン山（33.1m）も示されている。

まずは手始めに、交通の便の良い浅間山と丸墓山の梯子（連続登頂）に挑んでみることにした。

平成 25 年 2 月 1 日、天気は晴れ、予報では気温の上昇と夜の雨が報じられていたが支障はないので決行。朝の通勤ラッシュが一段落し始める頃を狙って、八千代台 9 時 12 分発のモーニングライナーで出発。京成上野駅着は 9 時 50 分。JR 上野駅へ移動して、一部の荷物（帰着後の用事に使う物）をコインロッカーに預けて高崎線ホームへ。

10 時 10 分発籠原行、通勤時間帯を外れたので車内は色々な種類の人が混ざっている。周りの景色を見ながらウトウトしている内に大宮に到着、10 時 35 分。

ザックから地図と磁石を出して行動開始。駅前通りを渡って、旧中山道に抜ける細い路地に入る。大宮に来るとかならずこの道を通り抜けることにしている。何となく「昔的」な香りがするので気に入っている。

さらに旧中山道を横切って直進するとしばらくで、南北に走る長い檜並木の氷川神社参道に出る。

南に進路をとり、上がって来た太陽の光を浴びながら進むと程なくして浅間町 1 丁目の表示が現れた。

注意深く地図を確認しながら左折して住宅街に入ると、幼稚園の先にこんもりした小さな林が見えてきた。

ブロックとフェンスに囲まれた小さな起伏の入り口には「浅間神社」と書いた赤い鳥居。（左写真）



鳥居をくぐると右に緩やかにカーブした階段。階段は 20 段程度だろうか、登りつめると円形の平坦な山頂にたどり着いた。勿論頂上の標識などありはしないし、三角点もない山頂だ。「浅間稲荷神社」と書いた小さな建物と、浅間様のご神体とおぼしき石柱を包む手作りのような建物だけがやけに人情っぽく建っていた。（右写真）

国土地理院の地形図で確認すると大宮駅の西口が海拔 10m、東口の大門町が海拔 14m なので、「ここは海拔 10m 位だろう」としか言いようがない。

周囲は住宅地で、遠くに目をやると幾つかの高層ビルが望める、いかにも都会の中の山という感じの山頂だった。この小さな山の東側には裏参道（？）も付いていた。裏参道の途中には「御嶽神社」の看板と小さな石柱が建っていた。

往路を引き返し大宮駅に向かう途中で、氷川参道の中央分離帯のようなところに庚申神社と書いた小さな祠を見つけた。腰を屈めて中を覗いて見たら、かなり風化した不動明王が鎮座していた。

次の目的地は行田の「さきたま古墳」。大宮発 11 時 40 分の高崎線に乗車。11 時 57 分発に乗る予定だったが、一本早い電車に乗ることができた。この時間を利用して行田に着いたら昼食を摂ることにした。

行田着は 12 時 12 分、市内を循環するミニバスは 12 時 57 分発なので食事をするにはちょうど良い。

駅前広場をぐるりと見渡したところ「食物」に有りつけそうな店は一軒しかなかった。店の前に立っていたサラリーマン風の数人のグループの会話が気になったが・・・、

「この店、旨いんだけど待ち時間が長いんだよな・・・」

選択の余地はないのでこのラーメンと書いた中華屋に入り、考えているとさらに遅くなるので、これまた選択の余地なく「タンメン！」。

心配したほどには時間はかからなかった。肉と野菜を軽く炒めた後で煮たきちんとしたタンメンだったが、野菜が盛り上がるように入っていた。店を出てバス停に向かうともうバスが待機していた。

ミニバスは市内の要所を循環するもので、これから乗る便はさきたま古墳公園を含むルートを左回りに周り、運賃は100円均一。病院や公的な施設の前を通り、国道や県道から離れた住宅地の中を巡り巡って、有る人は買い物に、有る人は病院へ、有る人は役所へ、また有る人は仕事の移動にと色々な客が乗り降りする。約20分でさきたま古墳公園に到着した。

バスを下りると、大平原にいくつかの起伏が並んでいるのが目に入って来た。駐車場の一角にある案内板が全体のレイアウトを示していた。（右写真：ホームページから入手した航空写真）

駐車場の近くにある小さめの前方後円墳「**愛宕山古墳**」が出迎えてくれた。全長53m、円部の高さ3.4mで、さきたま古墳群の中では一番小さな前方後円墳と書いてある。里山でよく見かける小さな起伏のようで、「古墳だよ」言われなかったら気が付かないかもしれない。

直進すると正面に茶碗を伏せたような「**丸墓山古墳**」が現れた。日本で一番大きな円墳で直径が105m、高さは18.9mあり、勿論さきたま古墳群の中でも一番。6世紀前半に造られたものらしい。頂上を通り抜けることができるように道が付いているので案内表示に従って登ることにした。頂上は円形の広場になっており、さすがに海拔36mだけあって周囲を睥睨する感がある。石田三成がこの頂上に砦を築いたという伝承があるらしい。周囲の堀割の一部を再現した水田には古代米の絵田圃が作られるらしい。無理して見世物を作ったなど言う気もするが……。埼玉県の低山として日本山名事典でも取り上げられていたが、頂上には三角点・標高点もないし、いわゆる山の天辺にあるような頂上標識は存在しなかった。

丸墓山の南東側には「**稲荷山古墳**」。5世紀後半に造られた前方後円墳で、全長120m、円部の径は62m、高さは11.7mある。昭和43年の発掘調査で金錯銘鉄剣など数多くの遺物が発掘されたそうだ。この鉄剣からは115文字の銘文が確認され、国宝に指定されている。

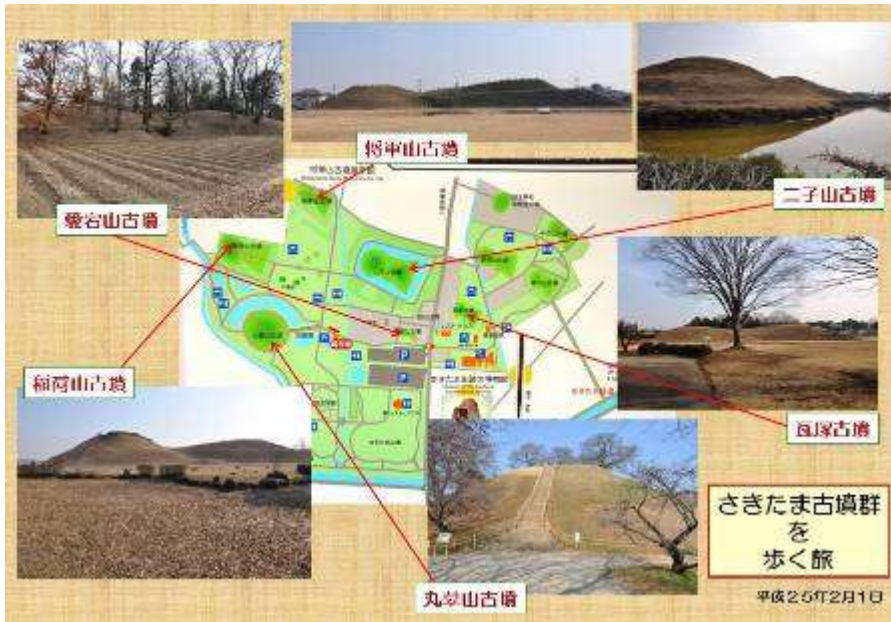
稲荷山の南にあるやや小さめの前方後円墳が「**将軍山古墳**」。全長90m、円部直径39m、前方部の幅は68mと稲荷山よりやや小さめなもの。明治27年の発掘により、横穴式石室からかなりの量の副葬品が出土された。出土品からみて造成時期は6世紀後半とのこと。墳墓の至る所に出土品のレプリカが飾られており、この古墳は遠くから見ると異彩を放っている。

「**二子山古墳**」は全長138m、後円部直径が70m、前方部の幅が90m、高さは13mと丸墓山に劣るが5世紀末に造られたもので、さきたま古墳群では最大の前方後円墳。周囲の堀割全域に水が満たされているという点でも唯一のものである。ここまでが県道77号線の北側にある古墳で、南側に渡るとさきたま史跡の博物館の横に「**瓦塚古墳**」がある。空は薄雲に覆われ始めて、太陽のない世界に入ってしまった。丸墓山を登るときには汗をかいたのに、今度は襟巻と手袋の重装備に変わってしまった。瓦塚古墳は将軍山よりもさらに小さい全長73m、高さ5.1m。琴を弾く男子、踊る男女、武人などの人物埴輪のほかにか家の形をした埴輪や盾の形をした埴輪も数多く出土された。出土品から見て、古墳の推定造成時期は6世紀前半から中頃。周囲の堀割が二重（内堀と外堀）に巡らされているのも特徴のひとつ。

さらに南に進むと「**鉄砲山古墳**」、隣に「**奥の山古墳**」、その南に「**中の山古墳**」、いずれも前方後円墳、そして円墳の「**浅間塚古墳**」。全長109m、高さ9mの鉄砲山古墳を最後に、徐々にサイズも小さくなっていく。戻る途中で「さきたま史跡の博物館」に立ち寄り、様々な展示物や説明資料を見て全体を再認識することができた。（次ページ写真：まとめ）

広い敷地内を巡り、いくつもの起伏を登り下りしたので少々疲れを感じてきた。二子山古墳の南側の県道沿いに軽食と喫茶の店を見つけて行ってみたら「本日は定休日」となっていたので、裏庭のオープンスペースに置いてある椅子に腰を下して、自動販売機で買って来た飲み物で休憩。数匹の野良猫が媚を売るような仕





草で寄り集まって来た。帰りのバスは15時30分発の左回り行田駅行き。すっかり体が冷え切ったところで暖かなバスに乗ったら急に睡魔に襲われ、帰りの車窓の景色は全く記憶がない。行田駅に16時07分着。次の上り電車までの25分間は待合室で休憩。行田発16時32分、上野駅に17時32分に帰着。埼玉県で一番低い山を巡る日帰りの旅はこれにて終了、コインロッカーに預けた荷物を出して

次の目的地の豊洲へ移動。

埼玉県で一番低い山のデータ上に登場するもう一つの山、ポンポン山は海拔33.1mで三角点もある山なので、この目で確認に行きたいと思っている。場所は、比企郡吉見町、さきたま古墳群からは高崎線を挟んで正反対の位置にある。早速次の旅のプランとして検討して見ることにした。

以上